

埋戻しの施工方法及び施工管理基準

平成10年1月
平成11年4月改訂
平成20年9月改訂

岡山市下水道河川局

埋戻しの施工方法及び施工管理基準

1 施工方法

道路交通に影響を及ぼさないよう、掘削・埋戻しについては以下のとおり十分に締固めを行い、掘削前と同等以上の機能回復を図ること。

(1) 埋戻しについて

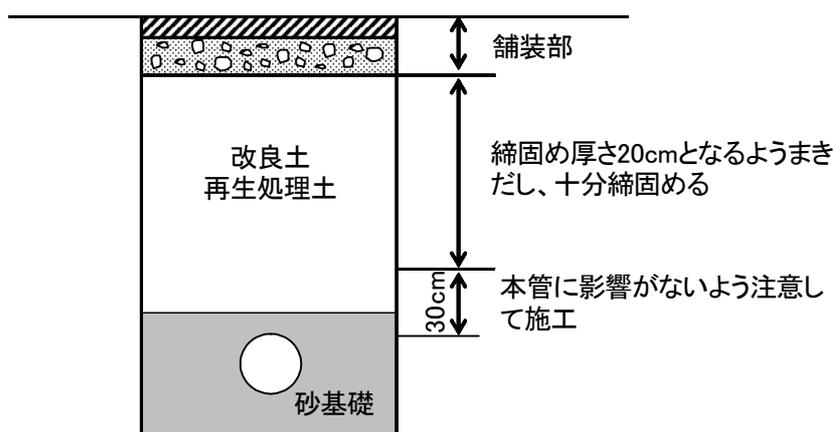
埋戻しは、締固め厚さ 20cm となるよう必要なまきだし厚により、均等に敷きならした後、次の規定に適合した締固め方法をとらなければならない。

ア タンピングランマー等を用いて十分に締固めること。（埋設管上 30cm 区間においては本管に影響がないよう十分注意して施工すること。）

イ 掘削溝内の地下埋設物に損傷が生じないように、事前に十分点検するとともに、適切な防護等を施すこと。

ウ 埋戻し後は、余剰土等を直ちに搬出処理し、路面の清掃に努めること。

施工概要図



2 施工管理基準

埋戻しに際しては、締固め度、支持力等に係わる管理試験を行い、所定の性能が得られていることを確認しなければならない。

(1) 施工管理基準

管理試験は、埋戻し箇所の施工条件や材料、締固め方法を考慮して表-1のとおり行うこと。ただし、試験方法は以下のとおりとし、原則として監督員の確認を必要とする。

表-1

埋戻し材料	試験項目	目標値	試験頻度
改良土 再生処理土	土研式貫入試験 (円すい貫入)	23回以上/10cm	3箇所以上/1工事、かつ200m ³ 毎1箇所とする。

注) 私道や施工延長が短い場合で、埋め戻し土量が200m³未満の工事については、監督員と協議して試験頻度を決定すること。

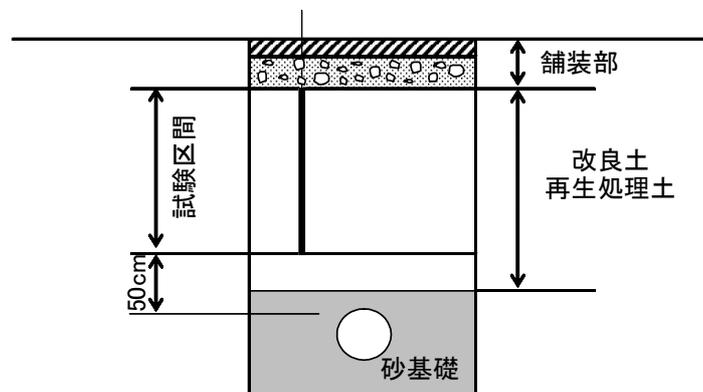
(2) 確認

- ア 試験結果については、施工管理記録用紙等に記入し、試験状況が十分に確認できる写真等を添付すること。
- イ その他、道路管理者が指示した事項については、実施すること。

(3) 試験実施方法

- ア 試験実施時期については原則として埋戻し完了時とする。
- イ 試験位置については原則として監督員が指示した場所とし、矢板中心線と埋設管側壁との中央付近で行うものとする。
- ウ 試験対象深度については、埋戻し天端より管上50cmの範囲とする。

(下図参照)



3 管理基準値

(1) 合格判定値

埋戻し材	試験項目	合格判定値
改良土 再生処理土	土研式貫入試験	23回以上/10cm

<参考式>

$$\textcircled{1} \text{土研式貫入試験 } \text{CBR} (\%) = 4 / 5 \text{Nd (回数)} - 6$$

(2) 特例について

現場条件等で23回を下回る値が出た場合は、1箇所当たり15回以上の値が2回までは合格とする。